

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mailで gpjimu@tenmon.or.jp宛、なお、原稿も必ず0422-31-5487迄Faxでお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

1. 教授または助教 1名
2. (1) 太陽圏環境部門、(2) 東山分室
- 3, 4. 太陽地球環境研究所は、太陽活動が宇宙空間や地球環境に及ぼす様々な現象を解明するために設置されました。今回人事公募する太陽圏環境部門は、太陽および宇宙空間における粒子やプラズマの加速・伝搬および太陽活動と地球環境変動の観測・研究を行っています。観測は、世界的な規模で展開され、高地等での新しい観測も開始されています。今回の公募では太陽地球環境研究所における太陽圏環境部門の役割を担うことのできる方で、上記の研究プロジェクトを指導的に推進できる、宇宙線研究の経験豊富な方を採用したいと考えています。全国共同利用研究所としての任務を十分に理解され、大学院理学研究科の協力講座として学生の教育にも熱意のある方を希望しています。
5. (1) 決定次第できるだけ早い時期
6. 博士の学位をお持ちの方。
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書及び自薦の場合は本人について意見を述べられる方2人の氏名と連絡先を記入した書面、他薦

の場合は2人の方からの推薦書。

8. 平成12年5月19日(金)
9. (1) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 上出洋介
電話：0533-89-5183
Fax：0533-89-0409
E-mail： kamide@stelab.nagoya-u.ac.jp
- (2) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学太陽地球環境研究所東山分室
太陽圏環境部門教授 村木 綏
電話：052-789-4314
Fax：052-789-4313
E-mail： muraki@stelab.nagoya-u.ac.jp
11. 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同研究所運営協議会の意見を求めて、教授会において決定します。なお、該当者がいない場合は決定を保留します。

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻助手

1. 助手1名
2. 大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻・宇宙進化グループ
3. 宇宙物理学理論
5. 決定後できるだけ早い時期
6. 博士号取得者または同等の能力実績を有する者
7. ○履歴書、○研究業績リスト、○主要論文別刷、(5編以内)、○これまでの研究概要(2000字以内)、○研究計画(2000字以内)、○照会可能者2名の氏名と連絡先
8. 2000年6月10日(土)必着
9. (1) 〒560-0043 豊中市待兼山町1-1 大阪大学理学研究科宇宙地球科学専攻長 常深 博
(2) 同専攻 高原文郎 電話 06-6850-5481
takahara@vega.ess.sci.osaka-u.ac.jp
または 佐々木節 電話 06-6850-5485
misao@vega.ess.sci.osaka-u.ac.jp
Fax 06-6850-5504
10. 封筒に「宇宙進化助手応募書類」と朱書し、簡易書留で送付のこと。

国立天文台

光学赤外線天文学・観測システム研究系教授

1. 教授 2 名
2. (1) 光学赤外線天文学・観測システム研究系
(2) 東京都三鷹市 (将来ハワイもありうる)
3. 光学赤外線天文学
4. 教授 A: すばる望遠鏡による観測的宇宙論研究の推進において共同利用機関の教授として指導的役割を果たす研究者 1 名
教授 B: すばる望遠鏡とその観測装置システムの完成度を高め、観測・開発的研究と共同利用の推進に指導的役割を果たす研究者 1 名
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すること) 及び主要論文の別刷, 研究計画書 (公募主旨に照らしての抱負を含む), 本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合は推薦書の他に, 前記事項 (1)~(4) の概要がわかる書類
8. 平成 12 年 6 月 2 日(金) 必着
9. (1) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
光学赤外線天文学・観測システム研究系主幹
家 正則
Tel: 0422-34-3520
iye@optik.mtk.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「光赤系教授応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

電波天文学研究系教授

1. 教授 1 名
2. (1) 電波天文学研究系, (2) 長野県南佐久郡南牧村野辺山 (東京都三鷹市もあり得る)
3. 宇宙電波天文学
4. 当該分野では, 45 m 電波望遠鏡やミリ波干渉計等を運用し観測成果をあげつつ, 次期計画として大型ミリ波サブミリ波干渉計 (LMSA) 計画を推進しています。電波天文学の発展に広い視野を持ち, LMSA 計画の実現を強力に推進する教授を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期

6. 大学院博士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すること) 及び主要論文の別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合は推薦書の他に, 前記事項 (1)~(4) の概要がわかる書類
8. 平成 12 年 7 月 7 日(金) 必着
9. (1) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒 384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山
電波天文学研究系主幹 中井直正
Tel: 0267-98-4392
nakai@nro.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「電波天文学教授応募書類在中」と朱記し, 郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

電波天文学研究系教官

1. 助手 2 名
2. (1) 電波天文学研究系, (2) 長野県南佐久郡南牧村野辺山
3. 宇宙電波天文学
4. 当該研究系宇宙電波分野では, 45 m 電波望遠鏡やミリ波干渉計等を運用し観測成果をあげつつ, 次期計画として大型ミリ波サブミリ波干渉計 (LMSA) 計画を推進しています。そのため, (A) 45 m 鏡やミリ波干渉計 (45 m 鏡と結合したレインボー干渉計も含む) 等の開発や運用を行いつつ観測的成果をあげる若手研究者 1 名 (宇宙電波分野), 及び (B) LMSA 計画の技術開発を中心に, 当該計画を意欲的に推進する若手研究者 1 名 (LMSA 分野) を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すること) 及び主要論文の別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先
8. 平成 12 年 7 月 7 日(金) 必着
9. (1) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒 384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山
電波天文学研究系主幹 中井直正
Tel: 0267-98-4392
nakai@nro.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「電波天文学助手応募書類在中」と朱

記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

位置天文・天体力学研究系教官

1. 助手1名
2. (1) 位置天文天体力学研究系 宇宙計量研究部門
(2) 東京都三鷹市
3. 重力波天文学
4. 国立天文台が全国の関連研究者との共同研究により開発し世界に先駆けて運転開始した重力波検出用300 mレーザー干渉計 (TAMA300) のデータ解析を、ソフトウェア開発まで含めて精力的に行いながら、重力波に関する天文学的研究を意欲的に推進できる研究者を求めます
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すること) 及び主要論文の別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 平成12年6月2日(金)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
位置天文天体力学研究系主幹 藤本真克
Tel: 0422-34-3622
10. 封筒の表に「重力波分野応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

地球回転研究系教官

1. 助手1名
2. (1) 地球回転研究系, (2) 東京都三鷹市
3. VLBI 天文学
4. 建設中の VERA (天文広域精測望遠鏡) システムの立ち上げ、試験観測に積極的役割を担うとともに、VERA を用いて、銀河動力学、銀河系ダークマター、星形成、晩期型星質量放出、宇宙距離尺度の直接検定などに関する新しい研究を切り開く、意欲的な若手研究者を期待しています。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すること) 及び主要論文の別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名

の氏名と連絡先

8. 平成12年6月2日(金)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒023-0861 岩手県水沢市星が丘町 2-1 2
地球回転研究系主幹 河野宣之
Tel: 0197-22-7122
10. 封筒の表に「地球回転研究系助手 (VERA) 応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

地球回転研究系教官

1. 助手1名
2. (1) 地球回転研究系, (2) 岩手県水沢市
3. 地球・惑星科学分野
4. 現在、地球回転研究系では、VLBI を基本技術として、月・惑星の重力場、回転運動や潮汐などの計測から、その内部構造、起源や進化の研究 (RISE 計画) を行うとともに、将来の月面での天文観測を視野に入れた構想の検討をも進めています。これらの計画に関連する装置およびソフトウェアの開発に積極的役割を担うとともに、上記研究を意欲的に進める若手研究者を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すること) 及び主要論文の別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 平成12年6月2日(金)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒023-0861 岩手県水沢市星が丘町 2-1 2
地球回転研究系主幹 河野宣之
Tel: 0197-22-7122
10. 封筒の表に「地球回転研究系助手 (RISE) 応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

天文学データ解析計算センター教官

1. 助手1名
2. (1) 天文学データ解析計算センター
(2) 東京都三鷹市

3. データベース天文学
4. すばる望遠鏡や野辺山宇宙電波観測所のデータを対象として、また、将来の電波の計画等のような大量にデータを生み出す装置の進展を考え、波長横断的な多波長データベース天文学の研究に情熱をもって取り組み、その開発をめざすと共に、センターの共同利用を推進する助手を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すること) 及び主要論文の別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 平成12年6月2日(金)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 海部宣男
- (2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
天文学データ解析計算センター長 近田義廣
Tel: 0422-34-3538
10. 封筒の表に「天文学データ解析計算センター助手応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター教官公募

1. 助手1名
2. 東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター
3. 観測天文学 (本センターは電波天文学, 銀河天文学, 恒星物理学部門, および木曾観測所で構成されております)
4. 観測天文学の研究と教育
5. 決定後なるべく早い時期
6. 修士の学位あるいは同等の研究歴をもつ方
7. 履歴書, 論文リスト, 研究歴と研究計画
8. 平成12年5月20日 (Latex FileをE-mailで可)
9. 〒181-0015 三鷹市大沢2-21-1
東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター 吉井 譲
(E-mailの場合 yoshii@ioa.s.u-tokyo.ac.jp)

京都大学理学研究科物理学宇宙物理学専攻教官

1. 助教授又は助手1名
2. 物理第二教室宇宙線研究室
3. X線天文学
4. 飛翔体を用いた高エネルギー天体の観測的研究, 並びに宇宙X線検出技術の開発研究
5. (1) 決定後出来るだけ早く
7. ○履歴書, ○研究歴, ○発表論文リスト, ○主要論文別冊, ○研究計画
8. 2000年6月5日(月)
9. (1) 606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学研究科, 物理第二教室
主任 九後太一
- (2) 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学研究科, 物理第二教室
宇宙線研究室, 小山勝二
E-mail: koyama@cr.scphys.kyoto-u.ac.jp
Tel: 075-753-3833
Fax: 075-753-3799
10. 封筒に「教官応募書類」と朱書し、郵送の場合は書留めのこと

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

香川大学教育学部講師または助手の公募

1. 2000年1月号
2. 高橋尚志 (University of York, Department of Physics)
3. 2000年4月1日

研究助成

(財)井上科学振興財団、「井上フェローの採用を希望する研究者」を募集

(財)井上科学振興財団(西川哲治理事長)は、第5回井上フェローの採用を希望する研究者を次のとおり募集(一般公募)している。

1. 募集の概要: 基礎科学分野の新しい開拓的發展を目指す45歳未満の優秀な中堅研究者が、自身の研究計画の發展のため、自身が選定する若手研究者を井上フェローとして採用し、当該研究の推進に協力させるための助成である。平成5年度に開始した事業で、今回は第5回の募集。井上フェローは全体で10名。博士号取得者(35歳未満)。フェローには月額35万円の研究奨励金を支給(必要な場合は、往復国際航空運賃も支給)。平成13年度(平成13年4月1日、又はそれ以降)に採用、期間は2年。但し、自己の研究室出身者以外から選定すること。
2. 応募資格: 国公立大学の原則として大学院博士課程の教員、並びに大学共同利用機関に所属する常勤研究者。45歳未満の者。
3. 申請受付: 2000年6月1日～9月20日
4. 申請用紙請求先: 財団法人井上科学振興財団
〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町11-20
TEL: 03-3477-2738 FAX: 03-3477-2747

研究会・集会案内

「スター・ウィーク ～星空に親しむ週間～」

のお知らせ

☆2000年8月1日～7日

「バード・ウィーク(愛鳥週間)があるなら、スター・ウィークがあってもいい。」そんなアイデアのもとに、1995年から始めた「スター・ウィーク ～星空に親しむ週間～」です。毎年8月1日～7日の一週間をスター・ウィークとし、「子どもから大人まで幅広く星空に親しんでもらおう!」という趣旨のキャンペーンです。

8月という夏休み期間中に天文イベントを実施することで、普段、夜間には外出しにくい小学生や中学生にも実際の星空を眺めてもらう機会を提供することができます。広い意味での理科教育、生涯教育の一環として、また、普段以上に親子の触れあいをする機会と

しても意義ある企画と考えております。

今年も、「スター・ウィーク ～星空に親しむ週間～」を、8月1日～7日に設定して、キャンペーンを行いたいと思っております。つきましては、夏休み期間中(概ね7月下旬～8月末までの期間)の星・宇宙に親しむという趣旨で行われるイベント(天体観望会、講演会、工作教室など)やプラネタリウム番組の投影など日常的に行っている活動でも結構ですので、情報を頂ければ幸いです。

お寄せいただいた情報は、集計後インターネットのウェブページに公開すると共に、各マスコミなどへ知らせる予定です。尚、5月8日(月)迄にご連絡頂ければ、実行委員会で作成するポスターに団体名を掲載させていただきます。このポスターは情報を提供していただいた団体を始め、各マスコミにも配布いたします(5月8日まではイベント等が決まらない場合でも、先んじてご連絡頂き、決定後詳細をご連絡頂けるのでしたら、先にご連絡頂ければポスターに掲載する事が出来ます)。

以上の趣旨をご理解いただき、ご協力下さるようお願いいたします。

なお、事務局職員が常駐しているわけではありませんので、お問い合わせは、極力、郵便、FAXまたは電子メールでお願いいたします。

お問い合わせ先: スター・ウィーク2000実行委員会
事務局: 国立天文台天文情報公開センター広報普及室内
〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
電話: 0422-34-3688
FAX: 0422-34-3810
電子メール: starweek@nao.ac.jp
ホームページ
URL=<http://www.nao.ac.jp/pio/starweek/>



「光子誕生」
和歌山県 小北純子

共同利用・共同研究

天文学教育研究大学連合からのお知らせ

天文学教育研究大学連合（以下大学連合）で、1999年1月より借り上げていた、ハワイ島ヒロ市にある大学院生用の宿泊施設が2000年3月で利用できなくなることになり、新たな施設が必要になりました。これまでの利用状況は予想を遙かに上回るものであったため、この機会に寝室5部屋を有する一戸建ての家を借り上げ、収容力を格段に増やしました。また、これまでの施設の構造上、男子学生のみでの利用とじていましたが、新しい施設は女子学生も利用できます。これは、大学院生がすばるの観測装置の立ち上げなどに参加しやすくするための措置ですが、すばるに直接関連しない観測などでも利用できます。また、空きがある場合や、特別の理由のある場合には、スタッフの利用も可能です。なお、この施設の借料は、主に天文学振興財団よりの助成によって賄われるものです。

関心のある方は、以下の方々の方に詳しい資料と利用の手引きがありますのでお問い合わせ下さい。

東北大学大学院理学研究科天文学専攻
谷口義明
東京大学大学院理学系研究科天文学専攻
岡村定矩
名古屋大学大学院理学研究科素粒子・宇宙物理学専攻
佐藤修二
京都大学大学院理学研究科物理学宇宙物理学専攻
大谷 浩
舞原俊憲

岡村定矩（大学連合運営委員長）

会務案内

日本天文学会評議員会 議事録

日時：2000年1月29日(土) 11時00分～15時00分
場所：東京大学理学部3号館 303教室

出席者：今井、尾崎、小杉、佐藤、祖父江、半田、松田、上野、岡村、奥田、小山、須藤、福島 以上13名

欠席者：家、池内、古在、杉本、谷口、長谷川、羽部、古屋、井上、海部、加藤、小平、鈴木、高原、福江、観山、吉田 以上17名

有効委任状提出者：杉本、谷口、長谷川、羽部、井上、海部、加藤、鈴木、福江、観山 以上10名

他に理事会から大石理事、立松理事、紀伊理事、有本理事、渡部天体発見賞選考委員会委員長、中井研究奨励賞選考委員会委員長が出席

議事に先立ち、議長に半田利弘氏を、署名人に佐藤勝彦氏、福島登志夫氏を選出した。

議事の経過及び結果

1. 前回（1999年10月8日）の評議員会議事録が報告され、承認された。早川幸男基金選考結果、IAU京都総会記念基金選考結果の報告があった。また、秋季総会で発表することが決定された「独立行政法人化に関する学会声明文」に関して今井評議員から今後の取り組みについての質問があった。記者会見を開く、学会Webページに載せる、他の学会にも伝達するなど、より国民に訴えるような取り組みをするべきであるとの意見が出された。

2. 2000年度春季年会で表彰する天体発見賞、林忠四郎賞、欧文報告論文賞の受賞候補者がそれぞれ渡部天体発見賞選考委員会委員長、奥田林忠四郎賞選考委員会委員長より下記のように報告され、承認された。

新天体発見賞：山本 稔氏、多胡昭彦氏、青木昌勝氏、高見沢今朝雄氏、串田麗樹氏

天体発見功労賞：串田麗樹氏

林忠四郎賞：中島 紀氏

欧文報告論文賞：小山勝二氏他7名

Discovery of Non-Thermal X-rays from the Northwest Shell of the New SNR RX J1713.7-3946 : The Second SN 1006 ? PASJ, vol. 49, pp. L7 - L11 (1997)

なお、研究奨励賞については、中井研究奨励賞選考委員会委員長から研究奨励賞候補者名とその表彰対象となった研究のあらましが報告された。しかし、

この研究は共同研究として遂行されたものであることから、当該研究に対する候補者の貢献度等を確認することが適当であると判断されたため、結論を次回に持ち越した。

また天体発見賞に関連して渡部天体発見賞選考委員会委員長より、1999年1月の評議員会にて天体発見賞選考委員会に検討を依頼した新天体の定義の再検討及びその定義に該当しない多数の天体を継続的に発見している場合の取扱いの件について、委員会での検討結果の報告が行なわれた。現状の新天体の定義には当てはまらないが観測量や発見数が多い場合や、長期間にわたるデータの積み重ねが天文学の発展に大きく貢献した場合なども表彰対象とするべきではないかとの報告であり、選考委員会でさらに議論を積み重ねて7月の評議員会までに結論を出し、必要ならば10月の秋季総会で細則の改訂等を行なうこととした。さらに欧文報告論文賞の推薦数が1件しかなかったことに関連して、推薦数を増やす方策として、推薦する際の精神的な負担を軽減する策を取る、推薦された候補以外にも数値化されたデータなどを元に学会としての推薦分を追加するなど具体的な方法論も提案され、これらに関して賛否両論からの意見交換が行なわれた。

3. 1999年度事業報告について大石庶務理事より説明が行われ、質疑応答の後承認された。
4. 1999年度収支決算報告・監査報告について立松会計理事より説明が行われた。質疑応答ののち承認された。これに関連してIAUアジア太平洋地域会議を数年以内に日本で開催する可能性が高く、その際にはそのための旅費を確保しなければならないことを考慮し、IAU京都総会記念基金の設立趣旨を踏まえた上でIAUアジア太平洋地域会議の開催が正式に決定するまで当基金の使用を当面凍結することとし、会員への通知等は理事会に一任することとした。
5. 第18期学術会議会員候補者の選挙結果の報告が大石庶務理事よりあった。続いて選挙結果を尊重した学会から推薦する会員候補者及び推薦人の選定を行い、候補者として池内了氏と小平桂一氏、また推薦人として岡村定矩氏、福島登志夫氏、予備者として柴田一成氏が選定された。次回の選挙からは、学術会議から依頼される推薦すべき候補者数を踏まえた選挙を行なうこと、また、学術会議候補者推薦規定の調査を理事会に依頼することとした。
6. 改訂を進めている各委員会内規の改定案が大石庶務理事より提示され、説明があった。意見交換の後、「委員会等に関する内規」を「共通内規」とする、第1条に記述された委員会に対してのみ適用されることが分かる表現に修正する、また、第6条を委員

の解任に関する条文とし内容を定款22条もしくは28条を参考にした文言にするという条件で、承認された。

7. PASJの運営状況、投稿料半額措置の期間について有本理事より資料が提出され説明があった。PASJの投稿数は大幅に増加し、既に150報と近年の中で最高を記録している。その理由としては、電子メールによって投稿できること、投稿料を半額にする期間を設けたこと、日本の天文雑誌を存続させたいこと、が挙げられた。2000年度には電子版PASJの本格運用を開始し、年間1000から1100ページを目標としている。投稿料半額化キャンペーンは当初の方針通り2000年12月31日で終了することが示され、承認された。
8. その他
 - (1) 民間の賞及び研究助成金の推薦を学会としてより多くするべきであるとの古在評議員からの意見に基づき、推薦がない場合は理事長、副理事長、庶務理事で相談して推薦者を出してはどうかとの考えが尾崎理事長より紹介され、その方針を支持することとした。
 - (2) 春季年会や年会で初めて行なうジュニアセッションの準備状況について大石庶務理事から報告があった。
 - (3) 平成13年度からの科研費制度が改訂され、科研費が使用可能になる時期が早まることとなった。科研費審査員候補の選定のスケジュールがこれまでより約半年早くなり、4月末日までに候補者選考結果をまとめる必要が生じたことが、福島評議員より報告された。
 - (4) IAU総会の申し込み締め切りが2月15日であることが福島評議員より報告され、周知徹底の依頼があった。

2000年2月22日

議長 半田利弘
 署名人 佐藤勝彦
 署名人 福島登志夫

日本天文学会理事会 議事録

日時：2000年1月22日(土) 11時00分～15時00分

場所：国立天文台 会議室

出席者：尾崎 家，小山，柴田，大石，立松，紀伊，吉川，上野，有本，沢，大谷，山岡，橋本，牧島
(出席者15名 欠席者なし)

議事に先立ち，署名人を選出した

議長：尾崎洋二

署名人：柴田一成，大石雅寿

議事の経過及び結果

1. 前回(1999年10月9日)の理事会議事録が報告され，承認された。
2. 1999年11月から12月にかけて日本学術会議次期会員候補及び2000～2003年度日本天文学会評議員選挙が実行され，日本学術会議第18期会員候補として池内了氏を推薦すること，また，2000～2003年度の新評議員候補者が決定されたことが報告された。これに関連して議論があり，次回以降は，選挙管理委員会が推薦人の推薦文を添付する場合，推薦人の名前，及び，日本学術会議会員候補者推薦内規に従って送付していることを明記した書面を添付して，選挙管理委員会が特定の候補者を推薦したと誤解されないようにする措置をとるよう，選挙管理委員会に依頼することとした。
3. 大石庶務理事より1999年度天文学会事業報告があり，質疑応答の後承認された。これに関連して天体発見賞の対象となる発見期間，選考時期，表彰時期のずれについて山岡理事より質問があり，意見交換を行ったのち細則の見直しを天体発見賞選考委員会などで検討することとなった。
4. 立松会計理事より1999年度収支決算報告及び監査報告があり，質疑応答の後承認された。PASJの出版社がElsevierからUAPに変更となったためにPASJ関係で予算額と決算額に大きな差が生じたこと，PASJの特集を組むと会計上有益であることなどが報告された。またJCBによる自動引き落としのキャンペーンを適宜実行することになった。また，監査報告もあり，正常に運営されていることが確認された。
5. 新入正会員の名簿が紹介され，14名全員の入会が承認された。
6. 改訂を進めている各委員会内規の改定案が大石庶務理事より提示され，説明があった。各委員会の条文の書き方などの整合性を取る必要があるが，基本的に内規改定・制定内容を承認した。その後沢理事より，公開講演会を天文教育委員会が担当することに対して疑義が出され，担当理事を理事会で議論して欲しいとの要望が表明された。議論の結果，年会実行委員会と教育担当理事が協調して公開講演会を実施してゆくことが確認された。
7. PASJの運営状況，投稿料半額措置の期間について有本理事より資料が提出され説明があった。PASJの投稿数は大幅に増加し，既に150報と近年の中で最高を記録している。その理由としては，電子メールによって投稿できること，投稿料を半額にする期間を設けたこと，日本の天文雑誌を存続させたいこと，が挙げられた。2000年度には電子版PASJの本格運用を開始し，年間1000から1100ページを目標としている。新たに編集委員として岩手大学の花見氏が推薦され，承認された。投稿料半額化キャンペーンは当初の方針通り2000年12月31日で終了することが示され，承認された。投稿数の増加に伴って編集委員の負担が増加しているため，著者に手渡すマニュアルを整備してはどうかとの意見が出された。
8. 2000年春季年会の準備状況について牧島理事より報告があった。4月3～5日が開催期間となる。セッション用の8会場は確保できているが講演数(393)から考えると6会場で済む見込みである。ポスター会場は御殿下記念館となる。続いて吉川理事より年会実行委員会の報告があった。全講演数は393，うちポスターは190である。ジュニアセッションでの発表は17件あり，セッションの時間は2時間とする。また特別講演は東大の須藤靖氏とTytler氏にお願いし「宇宙論」をテーマとして行なう。今後の講演では，筆頭著者と発表者が異なっても受理することを検討していることが報告され，その方針が了承された。また記念講演と総会はB会場で開催することを確認した。
9. その他
 - (1) 2001年度の年会開催日について下記のように内定した。
 - 2001年秋季年会(西はりま地区)：
 - 2001年10月4～6日
 - 2001年春季年会(千葉)については2001年3月中(26～28を第一希望)を理事会としては希望し，4月の場合は2～4が唯一の解であることを庶務理事から千葉大学に伝えることとなった。
 - (2) 2000年秋の年会(伊勢崎市)の準備状況について橋本理事より報告があった。ぐんま天文台へのエクスカージョンを考えているとのことである。
 - (3) 次回の理事会・評議員会の予定を以下のように

に決定した。

理事会 : 2000年4月5日(水)

評議員会 : 2000年4月4日(火)

- (4) 次期事務長に内定している東条氏の勤務開始日を2000年7月1日にすることを決定した。
- (5) 「独立行政法人化」に関する学会声明文を社会にアピールするため、声明文を各新聞社、通信社等マスコミ各社、文部省、学術会議等に送付することを池内氏と相談のうえ検討することとなった。
- (6) 古在由秀氏より学会から各賞への推薦を増やすべきだとの理事長への要望が届いたことが報告された。理事長・副理事長を中心に推薦数を増やすよう対応することとなった。
- (7) 加藤万里子氏から提出された夫婦別姓に関する文書の内容を確認した。重要な問題であることは認識されたが、理事会としては特にアクションはとらないこととした。
- (8) 上野理事より、天文月報編集委員として国立天文台の伊藤孝士氏を増員したいとの申し出があり、承認された。

議長 尾崎洋二
署名人 柴田一成
署名人 大石雅寿

欧文研究報告誌 (PASJ) のプレート頁製版実費の改訂についてお知らせ致します。

プレート頁の製版実費については、これまでフルカラーは1点につき11万円、白黒プレートについては無料とさせて頂いておりましたが、これを次のように改訂させて頂きます。

カラー製版代 : 76,000円

(52巻2号掲載分より)

モノクロ製版代 : 23,000円

(平成13年1月1日以降の投稿論文より)

尚、実際の請求金額には、これまで通り用紙代が上記の製版実費に加わります。

カラー製版代は、学会が出版社に交渉した結果、大幅な値下げが可能となりました。一方、白黒プレートは、これまで用紙代のみをご請求しておりましたが、制作実費を見直したところ、学会の負担が増してきていることもあり、今回よりカラープレートと同様に製版実費も併せて請求させて頂くことにしました。

何卒ご理解下さいますようお願い致します。

欧文研究報告編集長
有本 信雄

欧文研究報告誌 (PASJ)

「新編集委員になりました」

本年1月より、編集委員として新たに岩手大学人文社会科学部花見仁史さんに加わって頂きましたのでお知らせします。

欧文研究報告編集長
有本 信雄

編集後記

「新しく入りました」

某U編集長の強力な勧誘によって編集委員会に参加することになった新米です。

永く培われてきた古き良き伝統を踏襲しつつ、新しい時代にも対応できる『安く、早く、旨い!』三拍子揃った天文月報づくりに少しでも貢献して行きたいと思います。これから二年間よろしく願います。

伊藤孝士 (国立天文台データ解析センター)

編集委員 上野宗孝 (編集長), 伊藤孝士, 大橋正健, 小野智子, 斎藤芳隆, 田村元秀, 土橋一仁, 内藤統也, 和田桂一
平成12年4月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円 (本体667円) 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
TEL: 0422-31-1359 (事務室) / 0422-31-5488 (月報・欧文編集) FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ <http://www.tenmon.or.jp/> 月報編集 e-mail: gjjimu@tenmon.or.jp